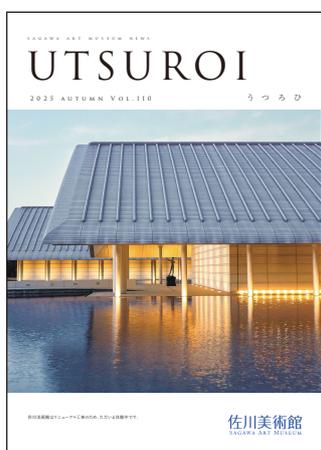
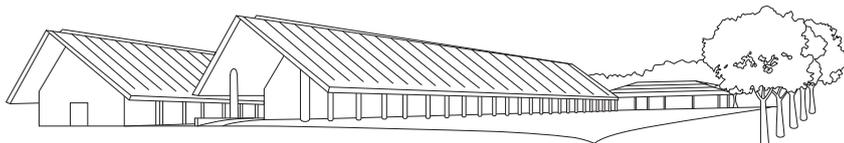


# うつろひ VOL.110

## リリースのおしらせ



佐川美術館友の会会員の方を対象に  
年4回季刊誌を発行しております。  
長期休館中に発行する110号の巻頭では、  
美術館を飛び出して平山郁夫・佐藤忠良の両氏が  
描いた滋賀県内の地を作品とともにご紹介。  
耳寄り情報満載のその他コーナーもお見逃しなく！

## 目次

素描作品で迎える平山郁夫と佐藤忠良の足跡 前編 .....	1-2
裏だけ収蔵品図鑑	PICK UP 3
教えてセンパイ！ / 美術館の旬 .....	4
【告知】友の会ツアー募集のご案内 .....	5-6
休館中の活動紹介 / 佐川美術館の隠れた名品 .....	裏表紙

次のページで  
ちょっとだけ紹介！

今回、裏側を覗いてみる作品は…

## 黒樂茶碗 よるたつてつきにたいす 銘「夜起対月」



本作は樂吉左衛門館が開館した2007年春に制作され、2007年秋の開館記念展覧会にて発表されました。やや丸みを帯びた形状の茶碗はつややかな黒釉で全体が覆われ、左上部の月の光が降り注ぐかのような美しい灰釉が特徴的です。落ち着いた佇まいでありながらも口縁は波打ち、リズム感のある一碗です。

# 裏だけ 収蔵品図鑑 #1

このコーナーでは絵画の裏面や、ブロンズ彫刻の内側、茶碗の箱など、普段展示室では見ることができない作品の裏側をテーマにご紹介します。

今回は茶碗を支えて、未来に受け継ぐための名脇役たちに目を向けます。



## 共箱

「共箱」とは作品を収納するための箱で、作者自身の署名(箱書き)が記されています。署名だけでなく銘や制作年なども書かれ、茶碗の由緒を証明します。箱書きは茶碗が本物であることを判断する手掛かりとなるため、共箱は茶碗の価値を左右するほど重要な付属品です。また箱は茶碗の寸法に合わせて特注で作られており、間違った茶碗を納めようとすると窮屈で入らなかったり、隙間が空きすぎたりするため、特注の箱は茶碗の取り違い防止になっています。

## 風呂敷 中は…

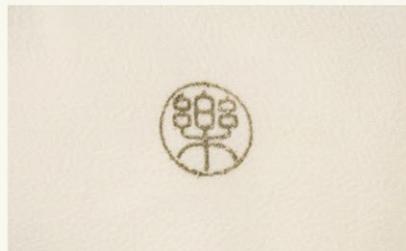
茶道具に関わる布地は、茶碗と箱が傷つかないように綿や絹といった柔らかな素材を使用します。茶碗を包む風呂敷には樂印が押され、ここでも茶碗の由緒を伝えています。他にも茶碗を衝撃から守るために綿や薄葉紙が詰められています。

## 真田紐

真田紐は綿や絹で織られた平たい紐で、頑丈で伸びにくく、結びやすいことから茶道具の箱に掛けて使われたり、美しい見た目から着物の帯留に使われたりします。箱に掛ける真田紐は流派の好みによって色が分かれます。黄色は表千家、緑萌黄色と薄茶色は裏千家、紺色と緑茶色は武者小路千家の好みの色です。また、四方右(左)掛けやつづら掛けといった独特な結び方がされています。



蓋表には銘と作者名が記されている



蓋裏には銘を引用した漢詩が記されている

